

【マスコミ各位】

平成26年8月6日（水）
沖縄県保健医療部 健康長寿課
担当：平良、大野
098-866-2209

日本脳炎注意報の発令について

1 概要

本県では、感染症流行予測調査において、日本脳炎ウイルスの活動状況を把握するため、増幅動物である豚の HI 抗体検査を毎年5月から8月の期間、毎月3回（上、中、下旬）実施しています。

日本脳炎ウイルスは、蚊（主にコガタアカイエカ）によって媒介され、ほとんどの哺乳動物に感染します。特に豚に感染すると体内で増え多量のウイルスが血液中に出て数日間持続することから、豚は日本脳炎ウイルス（JEV）の増幅動物として知られています。感染した豚は、血液中に日本脳炎ウイルスに対する抗体が産生されるので、豚の抗体陽性率を日本脳炎ウイルスの活動の指標としています。

今回、平成26年7月23日に採血し、抗体検査した結果、日本脳炎注意報発令基準*を超えましたので、日本脳炎注意報を発令し、県民に感染の予防等、注意を呼びかけます。

なお、県内では平成10年に1例（50代男性）、平成23年に1例（1歳男児）の患者が報告されています。

《過去の注意報発令時期》

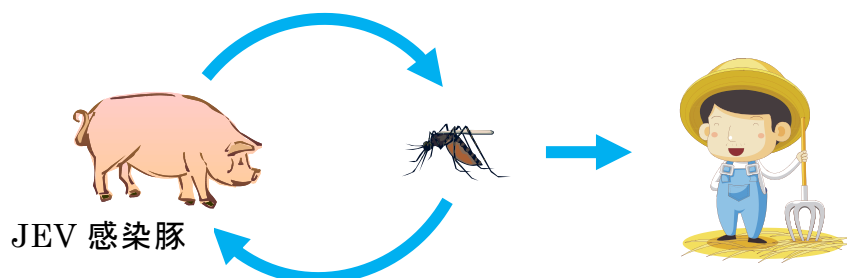
平成24年（8月10日）、平成20年（8月5日） 平成19年（8月31日）
平成18年（8月23日）、平成17年（9月13日） 平成16年（6月29日）
平成15年（7月9日）

※日本脳炎注意報発令基準：「HI抗体陽性率が平均50%を超え、かつ新鮮感染（最近感染したこと）を示す2-ME感受性抗体が検出されること」

2 日本脳炎について（感染症法では4類感染症）

原因：日本脳炎ウイルス（JEV）

感染経路：JEVに感染した豚→蚊が吸血（蚊の体内でJEVが増殖し、唾液腺にJEVが蓄積される）→JEV保有蚊が人を吸血することにより人に感染。
人から人への感染はない。



潜伏期間：1～2週間

症 状：(1) 感染しても発症するのは100～1000人に1人程度で、大多数は無症状におわります。

(2) 発病すると突然の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、意識障害や麻痺等の神経系の障害を引き起こします。

(3) 発症した方の20～40%が亡くなってしまうといわれています。また、生存者の45～70%に精神障害などの後遺症が残ってしまうといわれています。

診 断：(1) 分離・同定によるウイルスの検出

(2) ウイルスの遺伝子検出。

(3) IgM 抗体の検出

(4) ペア血清による抗体陽転又は抗体価の有意の上昇

治 療：対症療法のみ

3 沖縄県、全国の患者発生状況（人）

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
沖縄県	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
全国	2	4	7	7	10	3	3	4	9	2	9

日本では、1960年代まで毎年数百名以上の患者が報告されていたが、ワクチン普及などにより、年間数例をみる程度になった。

4 感染予防対策

(1) 蚊に刺されないように工夫しましょう。

- ・長袖、長ズボンを着用
- ・露出している皮膚へ虫除けスプレーを使用
- ・蚊が屋内に侵入しないよう網戸を使用

※ウイルスを媒介するコガタアカイエカは、**夜間吸血性**。

水田、湿地、池沼、たまり水が産卵場所。

日本では、7、8月に多く発生。コガタアカイエカの移動距離、概ね2kmといわれている。

(2) 日本脳炎ワクチンの予防接種が有効です。

予防接種法に基づく通常の定期予防接種スケジュールは以下のとおりです。

○第1期（3回）

初回接種（2回）：生後6か月以上90か月未満（標準として3歳）

追加接種（1回）：初回接種後おおむね1年後（標準として4歳）

○第2期（1回）：9歳以上13歳未満（標準として9歳）

- (3) 水たまりをなくすなど蚊の発生が起こりにくい環境づくりに心がけましょう。
- (4) 十分な栄養をとり、過労を避けるなど健康管理に努めましょう。

【参考】

○厚生労働省 HP

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekka-aku-kansenshou20/japanese_encephalitis.html

○日本脳炎ワクチン予防接種に係る Q&A(平成 25 年 3 月改訂版)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/na/je.html>